



拡大中学校区一日異校種体験研修 乗り入れ授業小6国語 ※ P7で説明

## 子どもたちの未来に向けて

指導管理主事 佐藤 研一郎

夏のある日、仕事を終え帰宅のため県道を車で走っていると、暗がりから藁をまとった妖怪が突然現れ、肝をつぶしました。その後も続々と妖怪と思われる姿が。中には浴衣を着たかわいらしい妖怪もいました。県道沿いに掲げられていた「仮装大会」ののぼり旗を思い出し、合点がいきました。地域を挙げて毎年行われている仮装大会は、多くの参加者を得て、大いに盛り上がったと思います。こうした仮装大会だけではなく、地域には昔からのお祭りや花火大会、さいの神等の伝統行事が多くあり、大人だけではなく、子どもたちも楽しみにしていると思います。

「子どもの数が減って子ども神輿を中止しました。」というある地域の祭り関係者の嘆きを伺う機会がありました。少子高齢化、人口減少など様々な課題がある中で、地域にとって昔から行われてきた伝統行事をどう継続していくか、どう盛り上げるかなどは絶えず議論されていると思います。学校では、多忙化解消や働き方改革の動きの中で、学校行事等の精選を大胆に図るなど、これまで当たり前に行ってきた行事や活動について、その価値を吟味し、継続するかやめるかなど大きな決断を迫られています。

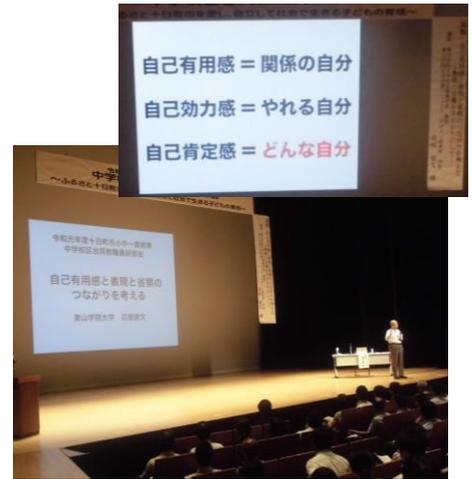
答えがなかなか出ない厳しい状況の中ですが、未来を生きる子どもたちのために我々大人が何を残すのか、何をすべきかを真剣に話し合うことが重要です。小中一貫教育の共通取組事項である「自己有用感の向上」や「居場所づくり」は、その課題解決の1つの視点と捉えることができると思います。学校と保護者、地域が本音で子どもたちの未来を語り合い、「三方良し」の関係が生み出されることを期待しているところです。そして、それをしっかり支えられる教育委員会でありたいと思います。

# 小中一貫教育

## ■小中一貫教育中学校区合同研修会を開催 講演会の肯定的評価 88.8%

8月2日（金）の研修会に、これまでの最高となる約370人の教職員が参加し、開催することができました。当日は、青山学院大学社会情報学部 苅宿俊文教授から「自己有用感と表現と省察のつながりを考える～教師の言葉を手がかりにして～」と題して、ご講演いただきました。

講演は、参加いただいた方から88.8%の肯定的評価があり、大変有意義であったととらえています。内容は、これからの子どもたちを取り巻く環境は、格差社会が広がること、非認知能力が重要になることなどを踏まえ、自己有用感、自己効力感、自己肯定感等のとらえを具体的にお話しいただき、「自己有用感とは誰もがもっているもの。引き出すもの。」という話が印象的でした。さらに、自己有用感を引き出す手がかりとして、新学習指導要領の捉えや発達の最近接領域の視点、教師の発話カテゴリー等の具体的な事例を通して学校現場の指導で参考となるお話をお聞きすることができました。参加者からは、以下のような感想がありました。



今回の研修と昨年度の「居場所づくり」「絆づくり」の研修と合わせ、児童生徒の自己有用感を引き出す取組に生かしていただくことを願っています。

- ・自己有用感を伸ばすための明確なヒントがあった。使う言葉をコントロールすることを意識していきたい。（中学校教諭）
- ・自己有用感を引き出すヒントについて考えることができた。「できるようになってきた」「できそう」を生み出す、児童にとって「ちょっと頑張ったら」「おもしろいけどくやしい」、課題設定をいろいろな場面で考えてみたいと思った。（小学校教諭）
- ・省察・振り返りについて、アウトプットという意味で使っていましたが、振り返ることで自分でやってきたことに気付き、自己有用感、効力感、肯定感を高めていくことが分かり、これからも大切にしていこうと思いました。また振り返りで終わりではなく、活用することも大切にしていこうと思いました。（中学校教諭）
- ・2学期からの指導、学級経営に生かしていこうと思います。（同様の感想、多数）

## ■「自己有用感」を高める(引き出す)具体的指導の実践例 募集!

学校全体や学年・学級の取組、個人の実践等 気軽に報告してください。

今回の合同研修会で学んだことを生かし、また昨年度の「居場所づくり」「絆づくり」の研修と合わせ、自己有用感を引き出す主体的な取組をお願いします。成功例だけでなく、課題や難しさを感じた実践でも結構です。来年度は取組3年目となり、検証を進める資料とするためにも積極的な報告をお願いします。9月の校長会でもお示しし、各校コーディネーターにも連絡済みです。

### <連絡事項>

- ・実践例報告書の原簿は次のフォルダにあります。  
職責別>学校間共通>小中一貫教育>共通取組事項>各中学校区フォルダ内(ファイル名(例):道徳の実践\_△中、Aさんへの支援\_0小)
- ・紙面の提出は必要なし。電子データを上記フォルダに置く。
- ・報告期限は、令和2年2月末

実践例報告書 →

市小中一貫教育共通取組事項  
「自己有用感」を高める(引き出す)具体的指導(支援)の実践例

〇〇小・中・支援 学校長

1 成果が見えた取組

〇自己有用感を育てる観点から  
<居場所づくり>  
<絆づくり>  
<発話・言葉掛け>  
<課題設定>

〇工夫した指導(支援)の具体的な内容—自己有用感を高める(引き出す)ために工夫したこと

〇成果が見えた子どもの具体的な姿 — 自己有用感が高まったと思われる具体的な姿

2 課題が残った取組

〇自己有用感を育てる観点から  
<居場所づくり>  
<絆づくり>  
<発話・言葉掛け>  
<課題設定>

〇課題が残った指導(支援)の具体的な内容 — 自己有用感を高める(引き出す)効果がなかったこと

〇課題克服のための具体的な改善策 — 自己有用感を高める(引き出す)ための改善策

# 教育相談班より

## ■ 8月末までの不登校状況について



令和元年8月末現在の不登校状況(欠席数30日以上の子どもの数)について、平成29年度・30年度同時期との比較から、次のような傾向が見えました。

小学校	H29…1人	⇒	H30…5人	⇒	R1…7人	年々 増加傾向
中学校	H29…21人	⇒	H30…20人	⇒	R1…17人	年々 減少傾向

小学校においては、新規不登校児童数の増加が見られるため、登校渋りの傾向にあるお子さんに対して、校内委員会等で情報共有、対策を協議する等、組織的に早めの対応をしていく必要があります。

中学校においては、**新規不登校生徒数、完全不登校（1日も学校に通えていない）生徒数が減少**しています。不登校の未然防止・不登校生徒への組織的対応の成果の表れと考えます。

今後も子どもたちの小さな変化に目を向けていただき、気になる子どもへはきめ細やかに組織としてスピード感をもった対応を進めていただきたいこと、そのために「**不登校予防のための早期対応マニュアル**」の積極的な活用をお願いします。なお、令和元年8月に「**不登校予防のための早期対応マニュアル 改訂版**」を作成しました。校内で平準化の取組として位置づけ、効果的な支援につなげてほしいと願っています。

### 『不登校予防のための早期対応マニュアル』のポイント

#### 1 『生活アンケート』の確実な実施

『生活アンケート』を継続して実施する。不登校予防にかかわる点検を確実に行う。アンケートは短いスパンで行い、あがってきた諸問題に早期に対応していく。

#### 2 『欠席・遅刻カード』を活用した全校体制での情報共有

欠席や遅刻・早退確認、保健室利用などをチェックして、全職員で不適應を起こしている児童生徒の動向を確実につかむ。電話連絡のあり方も今一度、校内で共有化を。

#### 3 「1・2（ワン・ツウ）運動」、「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」の実践

「欠席を関係職員に伝えた」だけで済ますことなく、個々の状況に応じてすぐに「1・2（ワン・ツウ）運動」、「1・1・1（ワン・ワン・ワン）運動」で児童生徒及び保護者に対応していく。

※『1・2運動』… 欠席1日目：電話連絡、欠席2日目：家庭訪問

※『1・1・1運動』… 欠席1日目から家庭訪問を継続（2学期はじめは特に）

#### 4 「欠席が連続3日・断続3日の欠席児童生徒」及び「別室登校や早退・遅刻が継続している児童生徒」の報告・対応

新たな不登校、または心配される児童生徒については、月末の報告を待たずに、すぐに「電話連絡」及び「不登校連絡シート：様式A・B」を市教委に提出する。月末の報告前に初期対応を進めていく。

#### 5 生徒指導上の諸問題の解決に向けて

不登校及び不登校傾向を起こす児童生徒は、不登校にかかわる問題だけでなく、別の問題行動へと繋がるリスクを背負っている。そうしたリスクを解消する意味からも、不登校予防や早期対応を徹底していく。

#### 6 ケース会議 趣旨の明確化

ケース会議をもつ「目的」や「ねらい」をはっきりさせること、本人にかかわる「課題」を明確にすることがケース会議を行う上で重要である。

#### 7 不登校が長期化しそうな場合の対応

児童生徒の状況に応じて市の適応指導教室等といった学校とは違う施設を利用する等、保護者・学校や関係機関と連携した取組を進めていく。

## ■特別支援教育の充実に向けて

市の学校教育の重点「特別支援教育の充実」を目指し、現在、年7回の特別支援教育研修講座と公開講座を進めているところです。

7月5日（金）には、上越教育大学・加藤哲文教授を講師に、千手中央コミュニティーセンターに於いて、特別支援教育公開講座を開催しました。「保幼から小学校・中学校への切れ目のない支援体制の構築」と題して、保育園から中学校、行政と多岐に渡る中、各ライフステージに応じた支援体制の構築に向けた大切なポイント等を、様々な具体的な事例も多数まじえて説明いただき、多くのことを学ばせていただきました。事後の参加者アンケートからは、「明日から試してみたいことがたくさんあった。」「どんな力を今つけるべきか、卒園後のことも考えていく必要性に気付かされた。」「先を見据えた支援という言葉に、今の支援の仕方を改める機会になった。」等が多数あり、充実した研修会となりました。

8月21（水）には、前十日町市教委嘱託指導主事 堀口生雄氏を講師に、川西庁舎大研修室に於いて、第4回特別支援教育研修講座を開催しました。研修会では、講師の特別支援教育における豊富な経験と識見を基に、「特性の強い子の支援を考えよう」と題して、管理職から特別支援教育に直接かかわる担任までの範囲の広い参加者に向けて大変分かりやすく御指導いただきました。特別支援教育の原点を再確認し、特別な支援のあり方についての悩みの改善に結び付けることができた有意義な研修会になりました。

## ■いじめ防止対策研修会

8月29日（木）川西庁舎第1研修室に於いて、中越教育事務所 結城義則指導主事を講師に「第1回いじめ防止対策研修会」を開催しました。当日は、豊富ないじめ問題対応実践と識見を基に、「いじめ・自殺の現状と課題」と題して、実践力向上アップにつながる御指導をいただくことができました。

「子どもが出す様々なサインやSOSをどのように見つけ、具体的にどう対応するのか」や、「いじめが起きたら個人として、組織として実際にどのように動くべきか」等について、参加者一人一人に発言の機会を与えたり、ペアで考えさせたりする場面を数多く設けながら、参加者の学びを深めていました。参加者が発言したり、話し合ったりする姿からベストな対応策を導き出そうとする真剣さが伝わってきました。参加者から「大変有意義な研修で、ぜひ校内で共有したいと思う。」「いじめ対応について真剣に考え、他の方の考えも聞くことができ、とてもためになった。」「いじめや自殺の予防について、もっと研修していかなければと強く感じさせられた研修だった。」「もっと



多くの先生方に参加してもらいたい研修だった。」等、研修の内容に対して肯定的な感想が多く寄せられました。

12月3日（火）の「第2回いじめ防止対策研修会」は、同会場に今回と同様、結城指導主事を講師に開催します。いじめは組織対応が大切であり、その要である「校長」が次回の研修対象者です。

## 学習指導班より

### TEC(Tokamachi English Camp)を開催 大盛況！

8月19日（月）に小学生、21日（水）に中学生を対象に、イングリッシュキャンプ（TEC）を開催しました。どちらも定員30名で募集したところ、小学生は54名、中学生は18名の参加がありました。当日は、新規ALTとして来日したばかりの男性2人、カール先生とミコー先生、さらに、国際交流員（CIR）として市役所勤務のアマンダさんを含め、6名の外国人スタッフと英語教育推進チームメンバーで運営しました。

小中学生とも、開会直後は少し硬さが見られたものの、自ら英語に親しみたいと申し込んできた子たちとあって、すぐにALTとも打ち解け、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られました。英語を使ってのいろいろなアクティビティや外国人スタッフの母国のお菓子作りを楽しむ中で、英語に親しみ、自信を深めている様子を感じられました。小中学生とも、参加者の8割以上が、「来年も参加したい」と答えており、充実した場となりました。

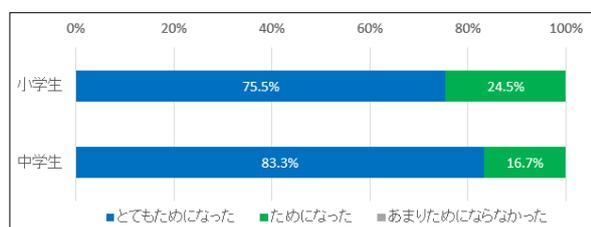


#### 【参加者のアンケートから】

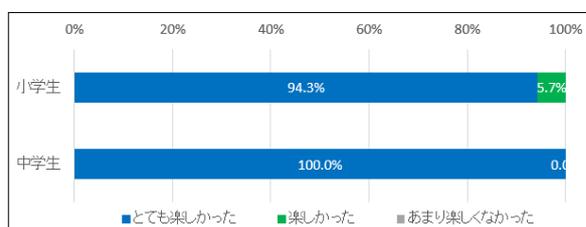
- 1 参加回数  
 小学生) 初参加=48名、2回目=6名  
 中学生) 初参加=9名、2回目=3名、3回目=6名

#### 2 感想

Q:「TEC」は、ためになったか。



Q:「TEC」は、楽しかったか。



## 英語ボランティアガイド養成講座

## 中高生 奮闘中！

十日町の豊かな自然や文化などの郷土の良さを知り、積極的に英語で発信し交流する「英語ボランティアガイド養成講座」に現在、市内の中学生1名と高校生4名が取り組んでいます。

今年度は「大地の芸術祭」の開催年でないため、直接的な「ガイド」はできませんでした。しかし、夏休み中に清津峡トンネルに外国人ゲストスピーカーとともに出かけ、外国人観光客を探してコミュニケーションを図るなど、積極的に活動に取り組みました。

現在は、英語で十日町を発信する「オリジナル十日町英文ガイド」の作成に取り組んでいます。今後、活動の成果を「School Visit」として学校を訪問し、プレゼンテーションする予定です。お楽しみに！



## 学力向上計画訪問(中里中学校区:貝野小学校)

### 自己有用感を軸にした取組

9月18日(水)に、中里中学校区の学力向上計画訪問が、貝野小学校を会場に行われました。

今回は、全校児童35名による「全校音楽」での授業公開でした。「10月の発表会で、おうちの人や地域の人に聴いてもらい、喜んでもらいたい。」と、すべての子どもたちと先生方が目標を一つにし、チャレンジしている姿が印象的でした。また、田沢小学校との学校統合を見据え、仲間(異学年)との交流の機会を大切に、互いの学びを高め合ったり、認め合ったりすることで自信をつけさせたいという先生方の思いが伝わってきました。校内研究としても「自己有用感」を大きな軸に設定し、多様な場や視点から学校体制として取り組んでいました。

全校体制で「自己有用感」の向上に取り組んでいる貝野小学校。必ずや、中里中学校区全体により影響が広がり、学力向上や不登校の減少などにつながってくるはずです。

2学期は、これからも学校訪問が予定されています。中学校区全体で、子どもたちの姿で課題解決に向けた方策を協議する貴重な場として、主体的・積極的な参加をお願いいたします。



## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11・12月～

日程	内容【会場】	備考
10月7日(月) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座④ 「児童生徒の言語の遅れに対する支援」 【川西庁舎第一研修室】	講師：三条市教育委員会 生方 清司 様
10月9日(水) 14:00～16:30	プログラミング研修② 【千手小学校】	講師：アーテック様
10月10日(木) 14:30～16:30	不登校対策研修会② 「新たな不登校を生まないための取組」 【川西庁舎第一研修室】	講師：十日町中学校 教諭 井口 暁子 様 十日町市教育委員会 嘱託指導主事 中川 久男
10月15日(火) 13:45～16:40	～プロに学ぶ～授業力向上研修 (社会科の授業) 【南中学校】	講師：筑波大付属中学校 主幹教諭 関谷 文宏 様
11月14日(木) 15:00～16:30	人権教育同和教育研修会 演題：「未定」 【千手中央コミュニティーセンター・ホール】	講師：県部落解放同盟 副執行委員長 嶋田 守雄 様
11月14日(木) 15:00～16:40	新採用・若手事務職員研修② 【川西庁舎】	講師：教育センター職員
11月28日(木) 15:20～16:45	読書活動推進事業② 図書館担当者研修会 【情報館】	※対象：図書館担当者
11月20日(水) 9:30～11:30	ファミリー学習会 【千手中央コミュニティーセンター】	講師：特別支援教育相談員・臨床心理士 ※対象：保護者
10・11月	キッズ英語遊び塾 橋小 10月4日(金) 鏡島小 10月18日(金) 吉田小 10月25日(金)	馬場小 11月1日(金) 橋小 11月8日(金) 鏡島小 11月15日(金)
11月	外国語活動サポート訪問 川治小 11月6日(水) 上野小 11月7日(木) 田沢小 11月27日(水)	
12月3日(火) 14:30～16:30	いじめ防止対策研修会② 「いじめ対応の校内体制づくり」 【川西庁舎第一研修室】	講師：中越教育事務所 指導主事 結城 義則 様 ※対象：校長

### 【表紙写真の説明】

拡大中学校区で9月に行われた一日異校種体験研修で中学校国語の教諭が小学校6年生の国語の授業を行っている様子です。中学校の教諭は専門を生かし巧みな話術で児童の関心を引き付けていました。9月には他にも同研修が行われ、中学校から小学校、小学校から中学校への乗り入れ授業が盛んに行われていました。教員にとって貴重な研修の機会となったとの報告がなされていることに研修の意義を感じます。